

Voice

ヴォイス 創刊号

大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞
第1号／発行2010年1月10日



サービスラーニングが 「文科省プログラム」に

地域に貢献し、自信を育む

written by 「Voice」編集長・森本 愛里(1年)

大分県立芸術文化短期大学(中山欽吾学長)が、情報コミュニケーション学科を中心に全学生を対象に実施しているサービスラーニングが、文部科学省の「大学教育推進プログラム」に選ばれた。

これにより平成21年度から3年間、同省から財政的支援を受ける。学生の自信を養成し、生涯にわたる地域への貢献を育むため、充実した取り組みと情報発信を行う方針だ。

このサービスラーニング新聞『VOICE』は、その一環として創刊された。

多くの人にとって「サービスラーニング」という言葉は、聞き慣れないものだろう。

大学での学習と地域で行う奉仕活動を組み合わせた体験学習だ。ただ活動するだけではなく、そこから学び、自分に何が必要なのかを考え、アイデンティティを確立する。それが課題である。

「体験をスキルに変えるナラティブ能力の養成」「サービスラーニングを中心とした自己の物語を探し創り発信する能力の形成プログラム」。

これが具体的な獲得目標だ。

『Voice』は学生たちの体験報告、地域の人々の声を取り上げる。個人と社会の関わりが薄れつつある現在、私たちの地域活動への持続的な関心を喚起していきたい。



意義深い夏の体験

written by 佐藤 明日美(1年)

7月23日の夜は「SAEMON23」だ。大分市・鶴崎商店街一帯を歩行者天国にして行われる地元の行事。第1回から参加の芸短大からは、100人以上の学生が参加した。

芸短大生によるプログラムは、昨年までのSAEMONダンスに加え、和太鼓サークル、出店参加、鶴崎〇×クイズ、早飲み早食い大会、ダンスサークル、小学生と一般市民のダンス、総踊りと盛りだくさん。企画運営チームは、今年のSAEMONのテーマ「参加と協働」を実現できる

ように、事前に地元の人たちとの意見交換を活発に行なった。

わたしはSAEMONダンスに参加した。国指定重要無形文化財・鶴崎踊りの「左右衛門」のリズムを元に、専攻科音楽専攻の学生が作曲した曲に、ダンスサークルの学生が振り付けした。鶴崎の伝統と文化に触れ、地元の人との合同練習もあり、交流も深まった意義深い夏の体験だった。

韓国俳優 アン・ソング、パク・チュンフン、イ・ボムスらと交流

第2回日韓次世代交流映画祭

Japan-Korea next generation film festival

創造的な3日間を演出した！ 泊り込みで学生のパワーを総結集！！



あふれる達成感、留学生と深めた絆。

12月11日から3日間、別府ビーコンプラザで「第2回日韓次世代交流映画祭」が開かれた。芸短生を中心に大分・別府地区の短大・大学生約80人がスタッフとして参加した。

国際的な大規模イベントだ。会場設営、上映・照明、受付、ゲスト案内、控室などグループごとの練習も積んだ。「誰かがやってくれる」。そんな甘えは許されないことを身をもって感じた。私は司会・進行役を務めた。

映画祭本番。学生間でよく連絡を取り合い、ゲストや観客に対して冷静に対応した。みんな生き生きとしていた。

夜10時過ぎにホテルに戻り、翌日の準備をした。睡眠時間は数時間。しかし、弱音を吐かなかった。映画祭までに培った信頼関係があったからだ。

「疲れたあ〜」と言いつつも、微笑み、達成感にあふれる表情。韓国人留学生との絆も深まった。第2回映画祭で見つけた課題は、第3回で生かせばいい。私たちは若いだから。



written by 森本 絵美莉(1年)

写真掲示板が好評！作業は深夜3時まで。

映画祭運営の軸になった学生約20人は、JR別府駅前の格安ホテルに泊まりこんだ。重い荷物を持ち、重い足取りで部屋に入る。和室に敷かれた布団に一目散に倒れこむ。「はあ、疲れた……」。

映画祭は3日間。写真掲示板を作った。「お風呂に入ったら、私の部屋に集まって」。メールを送る。作業開始！アンさんとのツーショットを撮った学生もいる。ちゃっかりしてるな。

総勢15人。写真を切ったり張ったりの作業。誰もが眠い。終わったのは午前3時。翌朝は6時半に起きた。トップスター並みのスケジュールだった。そのかいは十分にあった。

会場入り口の掲示板に、お客様が食いついた。「あっ、イ・ボムスさん。かっこいいわね」「アン・ソングさんも」「よくできてるわ」韓流ファンの会話が聞こえてきた。その一言で、気分は天国に変わった。



written by 赤池 すずか(1年)



私の映画祭 ～学生スタッフひとこと集～

- 1本の映画をみんなで完成させたような充実感にあふれている(M)
- 映画で自分の知らない世界を知った(K)
- スタッフの真剣な眼差しがレンズ越しに伝わった(F)
- 記録係。苦しい時もあったが、私を成長させた(K)
- 「初めて」をたくさん経験できた(M)
- 受付担当。おつりを何度か、間違えそうになった(T)
- スタッフ全員の努力と団結があった(Y)
- チマ・チョゴリで歩くのに苦労した。今までにないくらい忙しく、緊張感があった(K)



- 韓国語が話せないことに「いがいが」した(H)
- 普通の学生生活にはない貴重な体験だった(S)
- 心残りの部分もあるが、それ以上に得る物があった(I)
- 「君が記録映画を作って」。教授の一言で私の映画祭は始まり、今も続く(M)
- 協力すること、自分ができることが少し分かった(S)
- 会場係。最終日の座談会で、机の位置がずれていた(Y)
- 言葉は違っても、気持ちがあれば通じ合える(F)
- 「案ずるより産むが易し」。いくらが失敗はあったけど(N)

Through the Art

上野の森アートフェスティバル

自然の中で、自由に

11月7、8日の2日間、「上野の森アートフェスティバル」が開かれた。大分市美術館から上野ヶ丘公園にかけた地域で行われるイベント。作品展示会やワークショップ、コンサートなど、さまざまな形でアートとふれあう機会だ。

私は仲間と協力して、クレヨンなどを使ったワークショップを開いた。たくさん子どもたちが来てくれた。最初は何を描こうか迷っていたのに、いったん描き始めると、どんどん夢中になって一生懸命になってゆく姿が印象的だった。

子どもたちが描く絵は、自由でエネルギーに溢れていて、圧倒される。逆に見ている方が元気をもらった。自然豊かな土地に美術館が誕生したことから始まったフェスティバル。多くの人に支えられ、次世代へ受け継がれてほしい。

written by 荒木 夏穂(1年)

例年にも増して親子連れの参加者が多く、
会場中に元気な声が響きわたりました。



混浴温泉世界〜別府現代芸術フェスティバル2009〜

「混浴温泉世界」

新たなBEPPUを体験

4月11日から6月14日まで「別府現代芸術フェスティバル〜混浴温泉世界〜」が開かれた。地元在住の私はボランティアスタッフとして参加した。

参加してみると、今まで当たり前と思っていたことが珍しく感じられた。「湯煙や街並みが不思議で幻想的だ。何か吸い寄せられる」。県外客の話に、新しい角度から「BEPPU」を再発見した。

現代アートを通して、人と人の間に何か熱くなるものがある。そこから作品が生まれていく。とても素晴らしいことだと実感した。

written by 大野 詩織(1年)

Person of topic

2人の先生がプランナー 吉良学科長と 高橋講師



情報コミュニケーション学科の吉良伸一学科長(社会学)[=写真左]と高橋雅也講師[=写真右]。「サービslラーニング」教育を推進するプランナーであり、学生たちの活動を支える縁の下での力持ちである。

サービslラーニングの最大の目的は「学生に自信を持たせることだ」と言う。大学での学習と地域活動を結びつけ、学んだことを地域で生かし、地域活動をもとに「学問」の意味を考える。

情報コミュニケーション学科の4領域であるメディア(M)情報(I)心理学(P)社会学(S)を地域に生かし、地域に学び、情報を発信する。

「今まで出来なかったことや、今までの自分とは違うものを経験してほしい」。先生たちの意欲も熱い。

written by 齊藤 栞(1年)
picture by 古庄 春葉(1年)

10回も参加した！ 荒木夏穂さん(1年) 行動の幅が広がる



「サービslラーニングを通して、私は変わることができた」

半年で、10回もサービslラーニングに参加した。最初の参加は「あしなが学生募金」。最も印象深いのは「湯布院映画祭」だ。5日間、現地に宿泊しながら多くの人と触れ合えた。

「上野の森アートフェスティバル」では、責任ある立場からイベントを支える人の存在を知った。「サービslラーニングとは、ジャンプ直前のステップだ」。自分の世界や行動の幅が一気に広がったと実感している。

written by 中村 早希(1年)

1月29日(金) 報告会 in 大分市コンパルホール

1月29日、芸短生によるサービslラーニング報告会が午後1時から大分市コンパルホールで開催されます。

SAEMON23や日韓次世代交流映画祭、あしなが学生募金、キャンドルナイトなど、さまざまな地域活動に参加してきた学生たちが、自らが体験し、学んだことを発表します。学生のナマの声を聞いてみませんか？入場は無料。ぜひお越し下さい。

written by 関 麻利絵(1年)





Activity report

地域活動(コミュニティーサービス)と教科学習を結びつける教育活動、サービ斯拉ーニング(情報コミュニケーション学科専門科目)。ほとんどの学生がサービ斯拉ーニングを履修し地域活動と教科学習を結びつけ、学んだことを学習の場で生かす、地域での活動に励んでいます。

Oita Prefectural College of Arts and Culture



子どもキャンプ

私も一緒に成長した

8月7日から4日間、耶馬溪の憩いの森キャンプ場で行われたNPO法人「大分子子ども劇場」の子どもキャンプに参加した。初めて会う子どもたちと長時間のキャンプ生活を送ることに不安



を感じていたが、事前の打ち合わせ会議で子どもたちがとても積極的に話をしてくれたので、少し安心することができた。

キャンプ当日、ご飯も自分たちで作った。子どもたちがいつもよりしっかりしていて、大人に見えた。子どもがケガしないか、ケンカをしないかなど、私も気をつけて行動するようにした。子どもキャンプに参加して、たくさんの人とコミュニケーションをとることができた。私も子どもたちも、とても成長したと思う。



written by 小原井 梨芳(1年)

佐賀関へサイクリング

鉄道線路跡をひた走り

4回目の「さがのせき地域発見サイクリング」が、11月7日に開催された。JR高崎駅から佐賀関市民センターの「ふるさとまつり」会場を目指す。

JR大分駅から貸切の「サイクルトレイン」に、自転車を積んで高崎駅へ。海と並行して走るサイクリングロード(9キロ)は「佐賀関鉄道」として、昭和38年まで運行されていた。当時の橋やトンネル、プラットホームに郷愁を感じる。

佐賀関の会場では「ふるさとまつり」では、新鮮な魚や野菜、手作り食材がふんだんに即売されていた。約1時間後、サイクリング再開。帰り道は行く時より短く感じる。自信がついたせいだろうか。

written by 鎌田 麻衣(1年)



あしなが育英募金

誰かの幸せのため

新学期早々の4月18、19日、半年後の10月24、25日に、「あしなが育英会」主催の募金が全国一斉に行われた。高校生を含む多くの学生が参加した。私もその中の1人だ。

先輩たちと一緒に、朝10時から夕方6時まで募金活動をした。「この募金で頂きましたご寄付は、全額をあしなが育英会に寄付し、病気や災害・自殺によって親を失った子どもたちや親が障がいを持って働けない家庭の子ども達の進学のための奨学金として、大切にに使わせていただきます…」声を枯らし、一言一言に心を込めて、呼びかける。「誰かの幸せのために必死になれる人になりたい」。そう思った私は、常勤のボランティアスタッフとして働いている。この気持ちを忘れずに、活動したい。

written by 藤田 耀(1年)



キャンパスカフェ

取材力と表現力を磨く

隔週火曜日の夜。毎日新聞大分支部(大分市長浜)の2階会議室に、学生たちが集まってくる。「キャンパスカフェ」の編集会議が行われるのだ。

県内の短大生・大学生たちが取材し、執筆する新聞だ。毎月1回、毎日新聞大分版に1ページ大で掲載される。実社会と学園に切り込み、情報発信する最前線である。

今年で3年目。編集部員約20人のうち、芸短大生が半数以上を占める。私が初取材したのは、芸短大音楽科1年の金田祥且さん(66)。「やると決めたら、突っ込まないと気が済まない」。定年退職を機に、本格的な音楽教育の場にチャレンジした。

私も夢中になれるものを探したいと思った。「キャンパスカフェ」は交流の場であり、表現力を磨く鍛錬の場でもある。来年には、大規模な地域イベントを構想中だ。

written by 赤池 すずか(1年)



▲人気急上昇中のDAIGOさんに別府湾ロイヤルホテルでのトークショー後、単独インタビュー!!

◀11/20(金) GEITAN presents The Great Artists 佐藤しのぶさん(ソプラノ)と森島英子さん(ピアノ)をお招きし、「佐藤しのぶソプラノリサイタル〜人の心をつなぐプリマドンナ〜」を開催。

Voice

大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞

〒870-0833 大分市上野丘東1番11号 大分県立芸術文化短期大学
tel.097-545-0542(代表) / fax.097-545-0543

平成21年度 サービスラーニング活動内容

前期

- あしなが学生募金
- アースデイ
- アートスタジオオフィス
- 上野の森の会
- 園芸サークル
- おおいた親子劇場
- 大分たなばた祭り
- キャンドルナイト
- キャンパスカフェ
- 竹田食育ネット
- 田ノ浦ビーチ美化作戦
- 鶴崎サエモン23
- 福祉施設ボランティア
- 別府現代美術フェスティバル混浴温泉世界
- 湯布院映画祭

後期

- あしなが学生募金
- あしながPウォーク10
- 上野の森アートフェスティバル
- 上野の森の会
- 園芸サークル
- キャンドルナイト
- キャンパスカフェ
- 日韓次世代交流映画祭
- 天瀬グリーンツーリズム研究会
- さがのせき地球発見サイクリング
- スタジアムクリーン大作戦
- クリスマス献血キャンペーン

